

## 身近な樹木を活用した観察・調査・体験

校内や学校近辺に植栽され、比較的どこの地域・学校でもよく見られる樹木を教材として活用した、理科および環境学習の方法を提案します。身近な樹木のよさを様々な方法で観察・調査・体験することで、樹木に親しむとともに樹木や森林の大切さを学び、身近な自然環境を大切にすることを育てるのが最終的なねらいです。

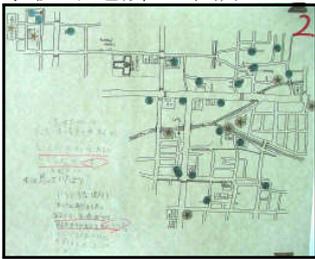
樹木の教材化の例（適期は主として秋の、10～11月） ※色つき部分は写真紹介した内容です。

学習テーマ	学習内容	教材に適する樹木
葉を調べる 	いろいろな樹木の葉を集め形・大きさ・色・模様・手ざわり・臭い・裏表のちがい等について調べ、それらを比較分類したり、押し葉にしたりする。	プラタナス、イチヨウ、ハンテンボク、クスノキ、キョウチクトウ、イロハモミジ等。★ヤマモモは巻いて笛にできる★タラヨウは爪で裏に字が書ける
実を調べる 	いろいろな樹木の実を集め形・大きさ・色・模様・手ざわり・味等のちがいについて調べ、それらを比較、分類する。また、食べられる実を試食する等、利用法を体験する	★シイ・マテバシイ（そのまま焼いて食べられる） ★イチヨウ（ギンナン：中の種を焼いて食べられる） ★エンジュ（さやで洗濯できる★ムクノキ・エノキ（甘くておいしい）
サイズ調べ 	いろいろな木の太さを、巻き尺や腕などで測り、比較する。可能ならば簡易測量で高さも測り、比較する。	ポプラ、クスノキ、アカマツ、タイサンボクなどの太い木や背の高い木
木にすむいきもの調べ 	いろんな木を調べ、住んでいる生物を見つけ、採集・記録し、どんな木のどんな場所にどんな生き物がいるかまとめる。	イロハモミジ、プラタナス、サクラ、ケヤキ、ポプラなど、大きめの、落葉樹がよい。枯れている木も生物が見つかる。寒い季節は常緑樹がよい。
木登りについて 	どこのどんな木に登りやすいか、登りにくいか、実際にいろんな木に登ってみて調べる。	ポプラ、クスノキ、プラタナス、タイサンボク、イチヨウ、サルスベリなど、太めで幹に枝や曲がりが適度にある木がよい。
木の名前の由来調べ 	いろいろな樹木の名前の由来を人に聞いたり、本やインターネットで調べたりし、他の人に紹介する。	ユズリハ、アラカシ、イロハモミジ、マテバシイ、サルスベリ等、由来の調べやすい木や名前のかわった木、元々名前を覚えている身近な木

<生物分野>

<p>木の使われ方</p> 	<p>身の回りにある、木でできているものをさがし、それがどんな種類の木でできているか調べ、その木の種類や森林について他の人に紹介する。</p>	<p>スギ、ヒノキ、ツゲ、ケヤキ、シラカシ、サクラ等、建物や道具の材料によく使われる木</p>
<p>枝・葉・実で遊具・立体工作</p> 	<p>樹木から落下した枝・葉・実等を採取し、段ボールやボール紙とともにコリントゲームや迷路をつくったり、図工と合科で立体作品を作ったりする。</p>	<p>腐っていない枝、アラカシ、シラカシ、クヌギ、マテバシイ等の、堅いどんぐり類やそれらの堅めの葉（常緑）が使いやすい。</p>
<p>私の好きな木について</p> 	<p>調べたい1本の木を決め、それをいろいろな観点から調べる。一年を通しての変化も見る場合、長期の観察も必要。</p>	<p>一年を通しての変化を見る場合は、イロハモミジやイチョウ、サクラ等の落葉樹がよい。実や花が目立つもの、特徴のあるものがよい</p>

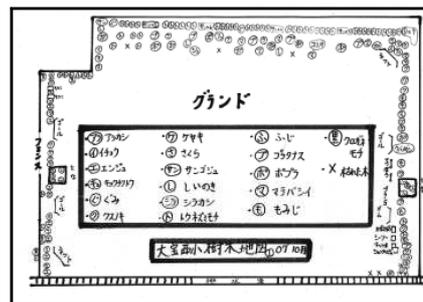
その他の教材化の例

<p>学校や近所の木調べ</p> 	<p>木の種調べ</p> 	<p>とげのある木調べ</p> 
<p>どこに木が生えているか調べて樹木マップをつくる。</p>	<p>樹木が種を散布する知恵や仕組みを学ぶ。対象：イロハモミジ、フジ、プラタナス等。</p>	<p>身を守るための樹木の知恵を学ぶ。対象：グミ、ピラカンサ等</p>

- ・色画用紙と同じ色の木の葉さがし（自然の葉の色の多様性を感じる）
- ・特定の樹木を指定し、それと同じ葉、木をさがす（樹木の特徴をみつける目を養う）
- ・木陰で休憩（藤棚や、樹冠の大きな木の下で涼しさを味わい、木の気候調節機能を学ぶ。）
- ・木の幹の模様調べ（幹に特徴のある木で、紙と鉛筆でその幹の模様を写し取って比較する。アカマツ、サクラ、イチョウ等。）
- ・木の種から苗を育ててみよう（大きくて堅い木の実を、鉢植えにして育ててみる。アラカシ、シラカシ、クリ、コナラ、クヌギ等のどんぐり類。）

注意

- ！ 指導者側は、校内にある樹木については、地域の樹木にくわしい人や自然観察教育施設などに協力を仰いで樹木の地図を作製し、必要に応じて子どもたちに情報提供することが望ましいです。
- ！ 毛虫その他、子どもたちの活動に身体的あるいは心理的障害になる生物に対しても、学習前に指導者側が調査し、適切な対処法を指導しておくことが望ましいです。



参考にした本 いわさゆうこ／『木の実ノート』、『20本の木ノート』／文化出版局